



東京部会(第7回)	
日時:	2007年11月29日(木)19:00-21:15
場所:	日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室
参加者:	加藤(日大)、中川(日大)、井尻(日大)、新井(都立西高)、三枝(目黒中央中)、杉田(千葉西高)、阿部(城西国際大)、高橋(都立拝島高)、鈴木(日本経済教育センター)、宮尾(国際大)[順不同]
<p>【内容要旨】</p> <p>まず加藤先生より、12月8日(土)9:10-16:30に開催される「経済教育フォーラム」(HPの「お知らせ」参照)への参加者募集・動員の呼びかけがあった。</p> <p>それに続いて、以下の教科書(ただし経済の部分のみ)のコピーが参加者に配布され、その背景や内容について議論が行われた。</p> <p>A)『社会科:中学生の公民:地球市民をめざして:改定版』(帝国書院) B)『新編:新しい社会:公民』(東京書籍) C)『現代社会』(東京書籍) D)『新版:現代社会』(実教出版)</p> <p>(1) まず現場の先生にこれらの教科書の利用状況や教える側の事情など背景に関して率直に話していただいた。特に、高校の「現代社会」については、教科書が使われない場合もあり、使われても教える先生の興味によって部分的に利用されるケースが多い。また「現代社会」を教えるのは地理や歴史の先生である場合が多く、その際には需給や価格のメカニズムなどはまず教えられないとのこと。</p> <p>(2) 中学の「公民」については、ほぼ教科書に沿って教えられることが多いが、先生方が経済の専門でないので、よほどよい教科書がないとうまく教えることは難しい。そのために、上記の(A)の教科書づくりに参加された三枝先生によれば、よい教科書づくりのために熱心なメンバーが十分に討論し協力する必要があったとのこと。この教科書に関する限りは、内容的にも(身近な消費者の行動から始まる点など)、プレゼンの仕方についても(イラスト、写真、図表の利用や各節ごとに質問を載せている点など)、参加者からよい評価が与えられた。</p> <p>(3) 問題は「現代社会」の教科書で、消費者・家計の説明がなく、いきなり企業の説明から入り、市場や政府といった順番になっている点や、後半では新聞記事的なトピックスが経済学的な説明なしに並べられている点など、前後の脈絡なくもりだくさんに色々なテーマがカバーされているのが目立つ。</p> <p>(4) そこで大学の経済学者(中川、宮尾、加藤)としては、上記の(1)と(3)に鑑みて、教科書の色々な個別的テーマのうち経済学的に説明できたり、経済的な具体例が思いつくもの(特に地理や歴史の先生にも興味をもってもらえるような例)を見つけて、教える際に興味を持ってもらい、教える際にも役立つような解説を考えて、その試案を次回の東京部会で報告することとなった。</p> <p>(5) また中学レベルでは、むしろ重要な経済的なテーマについての「用語集」があれば教える際に大変役立つのではないかとの発言があり、それも含めて、解説や用語集を作る際に参考になるような情報や資料を、次回持ち寄って検討することとした。その検討の結果、今後何ができるかをさらに議論することとなった。</p> <p>(文責:宮尾尊弘)</p>	
<p>次回開催予定: 1月10日(木)19:00-21:00、日大経済学部3号館(図書館)4階会議室</p>	